

第4期身延町行政改革推進委員会

平成27年度第1回委員会 会議録

○開催日 平成27年7月23日（木）
○場 所 身延町役場本庁舎第1会議室
○出席者 委員： 渡邊一郎 鴨狩ルリコ 川崎美香
土橋一彦 野中正英 佐野政人
望月 武 以上7名

欠席委員：高橋 完

（敬称略）

職員： 佐野文昭政策室長 笠井祥一財政課長
事務局：樋川 信（総務課長）
行政改革担当 深沢教博リダ - 望月 恵
以上5名

★19時25分 定刻前であるが、出席予定者全員が着席したので総務課長の進行により開会

○佐藤亜由美氏が、委員を辞職した件について報告。

★渡邊一郎会長挨拶

★「経過報告と今後の予定」（事務局から）

★会長が議長となり審議に入る

○「行政改革実行プラン」第2次改訂版策定について

- ・各課から報告された内容の訂正等について、事務局から説明。
目標値変更の可否について審議。

【事務局】 目標値の変更を申出ている所が数か所ある。早期に目標をクリアした為に目標値をアップさせる変更もあれば、何らかの理由により目標値に遠く及ばない為下方修正を行うケースも見られる。計画途中で目標値の変更をすることは、最終評価にも影響を及ぼし、「何の為の目標設定だったのか」「現状合わせの目標設定では行革にならない」などの意見も伺っている。
「そもそも基準年度以下の目標設定はありえない」逆に「現実的に現状維持が精いっぱい下方修正もやむなし」等々、様々な意見があると思う。この問題は、1つの施設だけじゃなく、全ての施設に影響を及ぼしてくる。最終評価にも影響を及ぼすケースなので、慎重審議をお願いしたい。

- 【委員】 何らかの理由があつてのことと思うが、理由の説明は。
- 【事務局】 保育料については、5ページの「年度別取組状況」欄に説明があるとおり、不納欠損により未収金額が減ったことが、収納率と未収金額が高い目標に修正された要因の一つ。しかし、「現年の収納率」は目標の100%から99.1%に下げており、その数値は平成24年度の収納率と同じ。
- 【委員】 悪く言えば、努力が足りない。
- 【委員】 現在の園児数は。子供を預けるからにはお金を払うことは当たり前。預けておきながら滞納すること自体考えられない。
- 【事務局】 おっしゃるとおり「目標値は100%が当たり前」というのも一つの目標値設定の考え方だが、現実を見ると100%には届かない。
- 【委員】 徴収努力はしていると思うが、どのような理由で滞納するのか。納められないということか。
- 【事務局】 生活に困窮しているケースや、払わなくて済むと考えているケース等様々。電話や訪問など行っているが、目標値100%には届かない。
目標を変えるということ自体の可否を審議していただきたい。特に来年は最終評価をする年になり、最終評価前に目標値を変更すると、昨年までの取り組みの評価は何だということにもなる。
- 【委員】 結局、最終評価の時にこの数値なら達成できるという考えからの修正に見える。他の部署も全部そのようにしてしまえば良いという考えになってしまう。あまりにも安易に数値を変えてきていると思う。100万円単位であれば、努力で達成不可能な数字だとは思わない。
- 【委員】 一か所認めると、他も達成可能な数値に変えてしまう。
- 【委員】 目標は目標として変えずに頑張ってもらい、達成できなかったら反省すれば良い。

※目標値の変更は認めないことに決定。

- ・委員より事前に提出された質問シートの回答を行う。

※質問及び回答は別添資料のとおり

○質問No.1～11についての質問・意見は以下のとおり。

◎質問No.8について

- 【委員】 平成26年度の経常収支等は、全て健全な数字になっているが、特別会計の借金が全く加味されていない。極端に言えば、赤字になるようなものを全て特別会計にしまえば、一般会計は非常に良い数字になるというようなことも操作上はできるのではない

か。夕張市の財政破たんの原因も、一般の経常収支だけじゃなく、特別会計を見たら非常に膨大な赤字があった。それを計算したところ経常収支比率は119.9%だった。本町の、特別会計の借金を含めた時の実質公債費比率等の数値を教えて欲しい。

【財政課長】 起債残高が入っていないとの指摘だが、ここにある129億円は、一般会計・特別会計すべて合わせた金額の起債の償還残高。経常収支比率は、各自治体の財政状況を比較する為に設けられ、会計を見やすくする為に「普通会計」というもので財政の状況を判断するということになっている。普通会計から計算された指標が経常収支比率。特別会計は別にだしている。夕張市の119.9%も、普通会計の中での経常収支比率。全く会計の違うものを比較してもわからない為、全国统一して普通会計という会計単位で計算して比較することになっている。なので、本町の場合は回答欄にある平成26年度74.4%が経常収支比率。

夕張市は一時借入を操作し借金が増えていった。委員のおっしゃるとおり、普通会計だけの比較だと見逃す部分があり、夕張市の破たんを受けて自治体財政健全化法が制定され、4つの指標（実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率）が設けられ、これを比較することになった。回答欄のこの数値は直近の数値だが、現在県が内容を精査している段階の為、万が一訂正があると数値が変わってくる可能性もあるが、ご承知おきいただきたい。

本町の数値は、実質赤字比率と連結実質赤字比率は、全く赤字が無い為数値自体がでてこない。

一般会計から特別会計への繰出金は、繰出基準というものが総務省で決められていて、基準に基づいて繰出をしており、特別会計が赤字だからといって、基準以上の繰出をすることは現状していない。いわゆるルール分の繰出の中で、本町の特別会計は現在全て黒字。

実質公債費比率は、一番重要な数値（指標）になってくるが、実質的に町が借金をしている額と、それ以外の一部事務組合等が借金として借りたものに対し町が負担金としてだしているもの等を全て含めて、基礎数値として割りだしたもの。前年が7.8%、26年度決算においては5.9%で1.9%の減額になっている。これは、子や孫に借金は残さないという町長の方針で、財政に余裕のある時にはできる限り繰上償還で、借金を返済する努力をしている。その結果、実質公債費率も減額してきている。

将来負担比率も本町では数値が入っていない。これは、地方債等の借金、将来的に町が背負っていかねばならない負担額、財

政を圧迫していく可能性を指標として割りだすもの。現状は、将来財政を圧迫する可能性は非常に低い状況。この4つの指標から見ても、現状の身延町の財政は、厳しい中だが、健全な財政に近いということでご理解いただきたい。

【委員】 健全財政で、心配ないとのことだが、下水道特別会計をみても、非常に先行投資をしている割には加入率63.8%と低い。人口減少に伴い世帯が減少することにより、負担が高まってくると思う。下水道特別会計が非常に財政負担になっていく一つの大きな要因。同時に、箱物行政、ほとんどが一千万円以上の赤字をだしている中で、もっと長期ビジョンで大英断を下すような展望が必要。町民の中にも役場の若手職員の中にも危機感があまり無いように思う。行政改革の原点だと思うが。

【財政課長】 ほとんどの職員は、本町の財政が厳しいということは理解をして行財政改革に取り組んでいると思う。

今後「公共施設等総合管理計画」を策定する。この計画の中で、具体的な今後の方針等を検討して行きたい。

【委員】 学校の統廃合は非常に速いペースで進んでいくが、箱物行政は三町の文化施設等全く統合されていない。そういうところが、中学校の統廃合について説得力が弱い。行政が身を持って箱物を一つにする等の前例を作る中で統廃合があれば良いのだが。

【委員】 実質公債費比率が前年7.8%、26年度5.9%とのことだが、一般に言う公債費率と実質公債費率は同じか。もっと数値が高いのかとと思っていたが。

【財政課長】 18%を超えると、地方債の許可団体になり、許可をしなければ借金も自由にできない。25%を超えると借金自体が認められない。その中で5.9%ということで、非常に健全だと思う。

◎質問No.3について

【政策室長】 回答欄の訂正を。パブリックコメント制度についての回答で、「平成24年度から」とあるが、「平成23年度から」と訂正をお願いしたい。

【委員】 広報等に掲載して意見を出せと期待するのは難しいと思う。パブリックコメントのような難しいものではなく、アンケート方式で選択方式にする等工夫をしないと、結果はでてこないと思う。

【政策室長】 今までは要綱にしたがって各課で行っていた。一つの案としてアンケートなど、意見を書いてもらえるようなものを検討する。

◎質問No.5について

【委員】 下水道加入率に処理区によって差がある理由は。

【総務課長】 高齢者が多いところはどうしても加入しない場合が多い。
下水道は加入者が多くても少なくとも稼働させなければならず、
経費がかさむ。現状は中々加入してもらえない。

【委員】 中富の状況は。

【総務課長】 中富の場合は、西嶋の紙屋を当初加入する見込みでいたが、紙
屋が潰れる等して加入しなかったことが大きい。

【委員】 加入できないところは計算から外すわけにはいかないのか。

【総務課長】 公共マスが1軒1軒あり、設置した公共マスがある限り、外し
て計算できない。

◎質問No.9～11について

【委員】 これらの施設をどうやって活かしていくか考える必要がある。
地方創生事業に絡めるのがわかりやすい。みんなが見て納得する
ような形態にするのが良いと思うが、これについてはどう思うか。

【委員】 おそらく老朽化した既存施設を順番にということだと思うが、
人口減少を考えると、もう少し早いペースにしなければ。小さい
施設だから維持費もそれほどかかっていないと思いのんびりして
いると思うが、ものすごい勢いで人口が減少していく中で、住み
よい街づくりを想定しながら、早急なビジョンを町民に提示して
いただければ、議論ができると思う。

【委員】 「今後策定する公共施設等総合管理計画」とあるが、いつ頃策
定するのか。

【財政課長】 今年度から町が所有している公共施設等のデータを蓄積して、
平成28年度中には策定しようということで、峡南5町足並みを
そろえ、峡南広域行政組合計算センターが中心になって準備を進
めている。

【委員】 門野の湯や下部の温泉も、外からの新しい利用者が無いのが決
定打だと思う。門野の湯も開館当初は他県からも大勢足を運んで
いただいた。現状は80%が地元の高齢者。他町・他県の人たち
の足が遠のいている。もっとPRをして策を考えないと、何年か
後に利用者ももっと減になり、町にも重荷の施設になってしまう。
これからは地元の人だけじゃなく、よそから一人でも多く来ても
らうことを考えないといけないと、地域の住民として感じている。
人口が減って過疎化する状況の中、今検討する必要がある。現状
を素直に受け止めて、どう解決するか。

【政策室長】 新規の開拓が課題だということは話に出ている。門野の湯の泉
質は、近隣の温泉よりも効能は良いというお墨付きはあるが、近
隣の町にも以前と比べて温泉施設ができたということ、南部の湯
やみたまの湯などの大きい施設と比べると門野の湯の施設が小さ

いことも要因かと思う。

下部の温泉は、登山者の利用が増えているが、困った問題として、山歩き後の汗をかいた利用者だとお風呂がよごれてしまうということもあり、町営の施設は受け入れているが、温泉街の方は嫌がっているということも聞いている。うまく使っていればとは思いますが。

本栖湖には中国人観光客が増えており、下部ホテルに聞いても中国の観光客も増えてきているとのこと。うまく利用してくれららと思う。

【委員】 名称に「高齢者保養施設」と付いていることはどうか。

【政策室長】 料金改定を話し合った時、名前の影響についても話をした。今回は踏み込まなかったが、いずれは取っても良いと思う。

【委員】 本町には門野の湯や下部温泉があるが、その成果として平均寿命・健康寿命が他町村と比べてどうかというデータはあるか。公的な温泉施設との因果関係があれば、存立意義が高まると思う。

【事務局】 次回委員会に資料を用意する。

【委員】 「集落敬老事業などの団体利用の際に健康教室」とあるが、希望すれば送迎も行ってくれるのか。月に何度か無料送迎があるようだが、決まったルート以外にも希望により奥に入ってもらえれば、行ける人も増えるのでは。

【事務局】 次回委員会時に福祉保健課に確認して報告する。

【委員】 和紙の里の売店を利用するが、よそから品物を持ってこないで、地元の商品をより多く置いた方が良いと思う。

【委員】 西嶋の紙屋は4件位で、非常に量が少なく、それだけだと、色々なものがだせない。見劣りがしてしまうが、量を増やすのは厳しい状況だと思う。

◎その他

【委員】 プレミアム商品券の売り上げ状況は。

【政策室長】 7/23現在の販売累計は、2051冊。販売量は11.59%。観光課とも相談して、防災無線を利用し早めの購入を呼び掛ける。それ以降残った分は、町内に通勤している方も買い物や昼食に利用したいという話も聞いているので、二次販売はそういう形を考えているが、なるべく町内の方に購入してもらえる努力をしたい。

◎事務局から今後の予定等の事務連絡。

★鴨狩職務代理から閉会のあいさつ。

★次回は8月3日（月）19時30分

21:20 散会